

合同学術総会

第21回化学生物総合管理学会 第18回社会技術革新学会

知の市場 協賛

日時：2024年9月6日(金) 19:00～23:30

会場：オンライン開催 (Zoom meeting)

一般発表 温暖化する地球の近未来

—地球環境の変化と生物生態系への影響—

神田尚俊(東京農工大学名誉教授、(元)Fogarty Fellow, Harvard University)

一般発表 自由貿易を追求した戦後日本の対英外交

—なぜ英国は日本への貿易差別を辞め自由貿易を選んだのか—

山口真人 (社会技術革新学会会員、知の市場講師)

自由討論 問題提起を契機に、ワイワイガヤガヤ、自由闊達に意見を交換する。

<プログラム詳細は、裏面をご参照ください。>

《参加方法》

★参加資格:学会の会員以外の方の参加も大歓迎です。

★参加登録:事前登録制です。参加希望の方は、①参加者氏名(フリガナ)、②所属(勤務先等)、③参加動機・関心事項などを明記のうえ、8月25日までにE-mail (kagakus * cbims.net) 宛てにお申し込み下さい。

なお、定員に達し次第、締め切りますので、お早めにお申し込みください。

★参加費

学会員の方:参加は無料です。

非会員の方:参加費は1,000円です。以下の口座に、8月25日までに振込み下さい。この期日までに振り込みが確認できなかった場合には、参加登録は自動的に取り消しになります。

みずほ銀行飯田橋支店,普通口座 2329303, 口座名 特定非営利活動法人 化学生物総合管理学会

※1 振込の際は、必ず参加者カナ氏名を振込み人名義として下さい。振込手数料はご負担下さい。

※2 出欠にかかわらず、一度振り込まれた参加費の返金はありませんので、予めご了承ください。

※3 領収書は発行いたしませんので、振込時のご利用明細票をご活用ください。

★参加証:振込の確認ができたのち、開催日前日までに、登録いただいたメールアドレス宛にメールにてお送りいたします。参加証にてオンライン学術総会のミーティング情報 (Zoomに接続するための情報) のご案内をいたします。

化学生物総合管理学会 社会技術革新学会

連絡先:(E-mail) kagakus * cbims.net (*を@に直して送信して下さい)

合同学術総会

第21回化学生物総合管理学会 第18回社会技術革新学会 知の市場 協賛

■ プログラム ■

2024年9月6日(金)

時間

発表者(敬称略)・所属

19:00

開会挨拶

明治維新から第二次世界大戦まで77年、そして第二次世界大戦から今日まで同じ77年が経過し、一つの節目の時を迎えた。その間、日本の企業・産業・経済・社会は劇的な変貌を遂げ、人々の人生も日々の生活も激変したが、それは一様な流れであったわけではない。それぞれの期間の前半では先行する欧米諸国を追いつつ高い成長を成し遂げ大正デモクラシーや経済大国ともてはやされる中でそれまでにない時代を謳歌した。一方で後半の期間では大恐慌や東西冷戦の終結などといった世界的な変動に見舞われるとともに関東大震災や東日本大震災などに直撃され困難と停滞を余儀なくされた。そうした中で戦禍に落ち込んでしまった先の77年の轍を再び踏まないためにも、後の77年とりわけ後半の30-40年の姿を多様な視点から改めて省みつつ常識というドグマを排し自由闊達に意見を戦わせ、今後のあり様に思いを致す。

増田 優
化学生物総合管理学会会長
社会技術革新学会会長
知の市場会長

19:10~20:40 一般発表・質疑応答

温暖化する地球の近未来
-地球環境の変化と生物生態系への影響-

2023年の夏の猛暑は、地球規模での温暖化の進行を実感させた。温暖化の主因は二酸化炭素(CO₂)の増加である。その主な発生源は化石燃料(石油、石炭)で、現代社会を支えるエネルギーの「80%」は化石燃料に依存している。化石燃料の消費量は、18世紀の産業革命以降、「動力源」として利用が増加し始め、20世紀に入ると急増し、その燃焼で発生するCO₂の増加は「温室効果ガス」として「地球温暖化」、「気候変動」を誘発し、暴風雨、洪水、干魃、森林火災などの自然災害が巨大化している。温暖化は「生物生態系」にも影響を与え始めており、気候変動を通して、近未来の食糧生産への影響も危惧されている。2023年開催の国連COP28(気候変動会議)では地球環境の保全に対してCO₂削減の緊急性が指摘された。しかし、CO₂排出抑制は、国家間の利害調整が難しく、総論で合意できても各論での意見調整がかなり難しいことも明らかになり、前回のCOP27会議で達成目標とした「2030年までの気温上昇を産業革命以前の1.5°C以内に抑制」は実現困難となりつつある。

神田尚俊
東京農工大学名誉教授、
(元)Fogarty Fellow.
Harvard University

20:40~22:10 一般発表・質疑応答

自由貿易を追求した戦後日本の対英外交
-なぜ英国は日本への貿易差別を辞め自由貿易を選んだのか-

日本は1955年にGATT(関税および貿易に関する一般協定)に加盟したが、英国が先陣を切って「日本とのGATT自由貿易関係に入ることを拒否した」ので、GATT加盟国の半数近い国々(フランス、オランダなどの欧州諸国、オーストラリア、インドなどの英連邦諸国、ブラジルなどの発展途上国)が英国に同調し対日輸入制限を継続した。結果、日本は戦後成長させた重化学工業製品を米国とカナダ以外の先進国には輸出できなかった。しかし、日本はこの頑迷な英国を説得し日英間の自由貿易を実現させ、その仕組みを日欧間貿易に拡大することに成功した。こうして日本は、カメラ、オートバイ、ラジオ、テレビ、化学、自動車などの「廉価で高品質な日本製品」を欧米先進国に供給し、日本はアジア・アフリカ諸国の中で唯一G7の一員になり、世界経済発展にも大きく貢献した。何故、英国は日本との自由貿易を選んだのであろうか。日本および英国の外交文書を解明することによって、ここに驚愕の史実を明らか

山口真人
社会技術革新学会会員
知の市場講師

22:10~23:30 自由討論 問題提起を契機に、ワイワイガヤガヤ、自由闊達に意見を交換する。

題名、発表順は都合により変更になる場合があります。

プログラム詳細は、化学生物総合管理学会 (<http://www.cbims.net/>) または社会技術革新学会 (<http://s-innovation.org/>) のホームページを参照下さい。